

宇宙安全保障部会 議事要旨

<目次>

第12回 平成28年5月16日（月）……………1

第13回 平成28年5月30日（月）……………3

## 第12回宇宙安全保障部会 議事要旨

### 1. 日時

平成28年5月16日（月） 10:00～12:00

### 2. 場所

内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

### 3. 出席者

#### (1) 委員

中須賀部会長、片岡部会長代理、青木委員、久保委員、鈴木委員、山川委員

#### (2) 事務局

小宮宇宙開発戦略推進事務局長、佐伯宇宙開発戦略推進事務局審議官、高見宇宙開発戦略推進事務局参事官、行松宇宙開発戦略推進事務局参事官、松井宇宙開発戦略推進事務局参事官

### 4. 議事要旨

#### (1) 宇宙政策委員会中間取りまとめに向けた検討課題について

平成28年4月26日に議論された、中間取りまとめに向けた検討課題について、資料1及び資料1-2に基づき、事務局より説明を行った。当該説明を踏まえ、委員から以下の意見・質問があった。(以下、○意見・質問、●事務局の回答等)

○検討すべき項目の中にある、射場のあり方に関する検討については、安保部会での検討項目となっていないが、安保分野にも深く関係する項目でもあり、今後、安保部会でも議論していく必要はないのか。

●射場のあり方に関する検討は、主に基盤部会で検討する項目ではあるが、安全保障分野とも不可分なものであるため、並行的に安保部会でも議論を進めていく必要があると認識している。

○米国は安全保障が民生をリードしてきた経緯がある。我が国はこれまで、宇宙において安全保障に踏み込めなかったが、昨今状況が変わってきた。今後、民生と安保のバックアップ・ループを考えるとどちらが主導的立場となるべきなのか。

●安保と民生は相互に影響しあっており、お互いが違うベクトル、違う速度で回っており、どちらがどちらを主導するとはいい難い状況である。また、そういったことを常に考える、専門の人材や組織が必要であり、今からそういった人材を育成していかなければいけない。

#### (2) Xバンド衛星通信中継機能等の整備・運営事業について

Xバンド衛星通信中継機能等の整備・運営事業について、資料2に基づき、防衛より説明を行った。当該説明を踏まえ、委員から以下の質問があった。(以下、○質問、●事務局等の回答)

○PFI調達に関して、英国のスカイネット社が先行モデルとして参考になるが、本事例と大きく違うのが、スカイネットは民間に自由度が高く、余剰の通信能力を民間が活用できるマーケットが存在しており、民が儲かる仕組みができています。一方、Xバンド衛星にお

けるPFIのケースでは、民間の自由度が低い。これでは、事業の持続性という観点が出ていないのではないか。

○予備機の問題もあるが、有事の際の所要の増大や、今後の技術革新によるデータ量の増大などに対応できるシステムになっているのか。

●開発当初から、有事を想定した設計となっているが、今後データ量の増大などへの対応は考えていかなければいけない。予備機のみならず、民生品や外国のアセットの活用等も検討していきたい。また、PFI調達に関しては、英国の先進性についても勉強していきたい。

○衛星通信は自衛隊にも必須であり、基本的には政府が持つべき機能である。今回の報告は3号機をいかに整備していくかに焦点があてられていたと思うが、3号機の必要性は極めて高いという認識である。そういった前提にたてば、説明資料2ページの「29年度概算要求を追及」では表現が弱いのではないか。

●昨年度の予算要求では、予算の枠や、省として様々なアセットがある中で難しいところがあった。今年度の予算要求は、宇宙基本計画の工程表のスケジュールに間に合わせるぎりぎりのタイミングでもあり、努力していきたい。

以上

## 第13回宇宙安全保障部会 議事要旨

### 1. 日時

平成28年5月30日（月） 14:00～16:00

### 2. 場所

内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

### 3. 出席者

#### (1) 委員

中須賀部会長、片岡部会長代理、折木委員、久保委員、鈴木委員、山川委員

#### (2) 事務局

小宮宇宙開発戦略推進事務局長、佐伯宇宙開発戦略推進事務局審議官、高見宇宙開発戦略推進事務局参事官、行松宇宙開発戦略推進事務局参事官、松井宇宙開発戦略推進事務局参事官、守山宇宙開発戦略推進事務局参事官

### 4. 議事要旨

#### (1) 宇宙政策委員会中間取りまとめに向けた検討課題について

平成28年4月26日に議論された、中間取りまとめに向けた検討課題について、資料1及び資料2に基づき、事務局より説明を行った。当該説明を踏まえ、委員から以下の意見・質問があった。(以下、○意見・質問、●事務局の回答等)

○中間取りまとめにおいて、安保部会案件として議論する項目の中には、来月立ち上げる予定と聞いている宇宙産業振興小委員会と平行的に議論されるべきものもあるのではないかと。

●当然二つは相関しながら回していかなければいけないが、例えば米国などは、宇宙の安保利用によって、民生をリードしてきた経緯があり、ヨーロッパは民生が主導をとってきている経緯がある。我が国においては、これまで研究開発が主体であったが、今後何がドライビング・フォースとなって我が国の宇宙を引っ張っていくかについての議論を産業小委等の中で検討していかなければいけない。

#### (2) 宇宙状況監視体制について

宇宙状況監視体制について、机上回収資料に基づき、防衛省より説明を行った。当該説明を踏まえ、委員から以下の質問があった。(以下、○質問、●事務局等の回答)

○説明の中に人的交流の必要性について触れているが、防衛省として人的交流をどのようにやっていこうとしているのか。

●防衛省とJAXAの間では、すでに人事交流を通じて交流をおこなっている。また、米国とは、米国がもつSSAに関する優れた知見を得るために、これまでもSCWG等のワーキンググループに防衛省から参加してきたが、今後も米軍の宇宙教育課程への入校等も考慮していきたい。

- 米側の動きとして、今後SSAの権限をFAAに委譲するという話もある中、我が国が今後SSAを進めていく中で、この動きがどう影響してくると考えているか。
- 防衛省としても、その動きに関しては注視していくが、今のところどういった運用方法になるかも不明であるため、どのような影響があるかを検討するのは困難である。いずれにせよ、これまでは軍中心のフレームワークだったのが変わってきており、今後保秘の問題等様々な可能性を考慮していかなければいけないと思料。
  
- 宇宙物体を監視するに当たっては、何もない状態からではなく、事前に情報を仕入れたうえで、監視を行った方が、効率性が高いと考える。
- 防衛省としては、米軍等から得られる情報は事前に得たうえで、より効率的なSSA運用が行えるようにしていきたい。

以 上